

目的

八王子市では、義務教育9年間を通じた教育「小中一貫教育」を推進しています。川口中学校区では、川口小学校、上川口小学校、美山小学校、松枝小学校及び川口中学校の5校で小中一貫教育を行っていますが、複式学級(2学年で1学級)を編成するなど小規模が学校が存在しています。本市の未来を担う子どもたちの学習環境を整備することはもちろんですが、学校を地域の拠点として活用していくために、地域づくり推進会議をはじめとした地域の方々や学校再編を行うための解決策を考えていければと考えています。

川口中学校区内の小・中学校

(R4.4.7現在)

学校名	児童・生徒数	学級数	建築年度	(参考) R10年度 児童・生徒数
川口小学校	283人	12学級	昭和45年(1970年)	207人
上川口小学校	39人	6学級	昭和50年(1975年)	26人
美山小学校	35人	5学級	昭和45年(1970年)	27人
松枝小学校	294人	12学級	昭和54年(1979年)	230人
川口中学校	338人	10学級	昭和41年(1966年)	325人
計	989人	-	-	815人

住民基本台帳より算出

小・中学校における課題

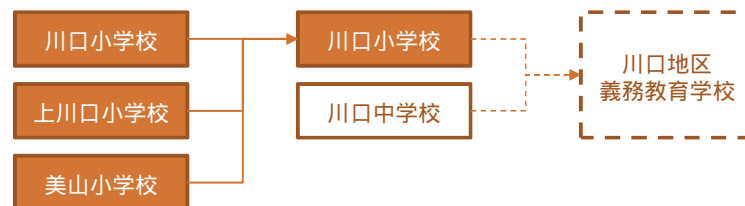
- 学校の小規模化
 - ・美山小学校は複式学級を編成(今後は上川口小学校でも)
 - ・今後も児童・生徒の増加は見込まれない
- 松枝小学校卒業生の指定中学校は、川口中学校と檜原中学校の2校
 - ・小中一貫教育は川口中学校と実施
- 学校施設の老朽化
 - ・建築から50年を越える学校が多い



子どもたちのために教育環境の整備を

学校再編の考え方

上川口小学校と美山小学校は、川口小学校に統合します。統合後、川口小学校と川口中学校の再編及び施設整備を検討します。



学校再編の効果(小規模校のメリット・デメリット)

きめ細やかな指導が行いやすい
活動のリーダーを務める機会が増える
発言や発表の機会が多くなる

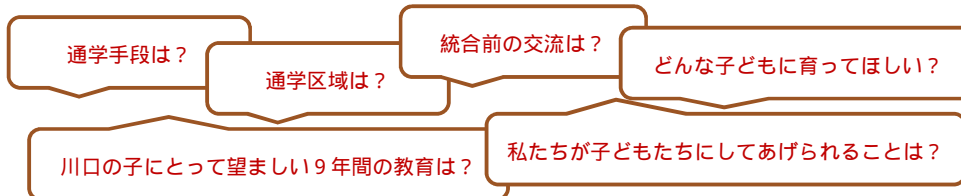


運動会や遠足等の集団活動・行事の教育効果が下がる
球技や合唱のような集団学習に制約が生じる
子どもたちから多様な発言が引き出しにくくなる
クラス替えができなくなる
習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(文部科学省・平成27年11月)」より引用

学校再編に向けて(皆さんと話し合います)

川口の未来を担う子どもたちにとって、より良い環境づくりを考えてみませんか。



スケジュール

<参考> 改築時の標準例	
・基本構想・基本計画の策定	1年
・基本設計	1年
・実施設計	2年
・建設工事	3年

2022	2023	
学校再編に向けた課題整理	既存建物(学校)耐力度調査	学校整備方法の決定